

テーマ：景気動向指数（9月）の予測**発表日：2010年10月29日（金）****～一致C Iは09年3月以来の低下。10月分では基調判断が「足踏み」に下方修正の可能性も～**

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ C I一致指数は09年3月以来の低下。10月分では基調判断下方修正の可能性も

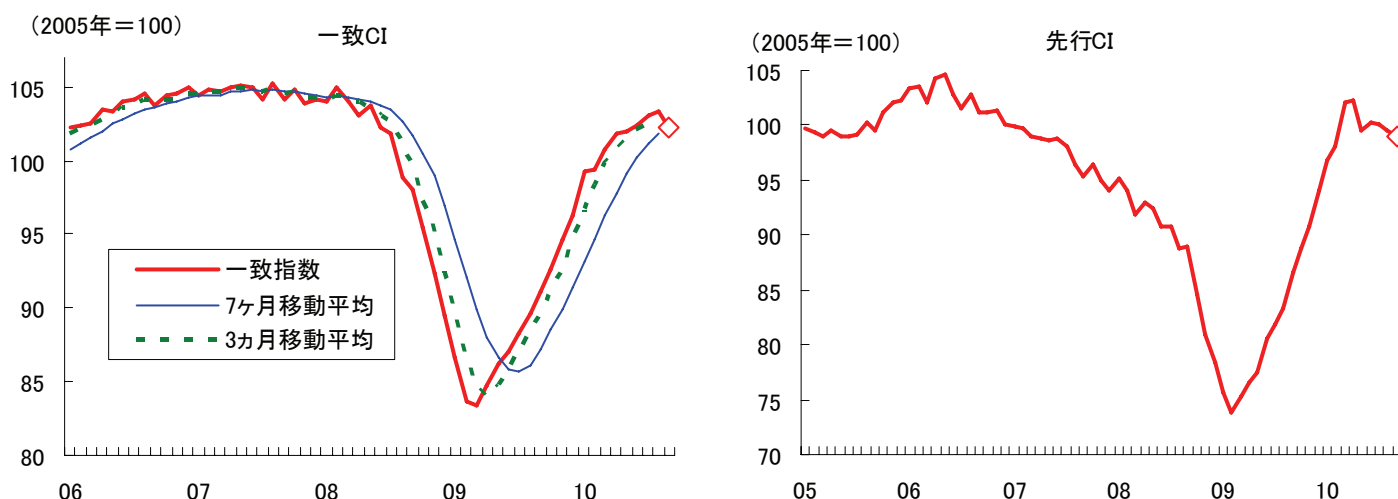
内閣府から11月8日に公表される9月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差▲1.1ポイントが予想される¹。前月差低下は09年3月以来のことであり、C Iの回復ペース鈍化が明確になっている。輸出が減速していることなどを背景に、生産が足元で弱含んでいることが影響している。季節調整の問題もあって基調が読みづらくなっていることは確かだが、総合的に見て景気の減速感が強まっていることは確かだろう。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は「改善を示している」が維持される見込みである。C I一致指数の3ヶ月移動平均前月差は▲0.07と、09年4月以来のマイナスに転じる見込みであるが、内閣府が設定している「3ヶ月後方移動平均の符号が変化し、1ヶ月、2ヶ月、または3ヶ月の累積で1標準偏差分以上逆方向に振れた場合。」という下方修正の基準はまだ満たしていないことから、9月の判断は現状維持となる可能性が高いだろう。

もっとも、自動車の大幅減産等を背景として、10月の生産予測指数が前月比▲3.6%と大幅なマイナスとなっていることから考えて、10月のC I一致指数も大きく低下する可能性は高い。10月分ではこの下方修正の基準を満たす可能性は十分あるだろう。その場合、C I一致指数の基調判断は、現在の「改善」から「足踏み」に下方修正されることになる。

○ C I先行指数は3ヶ月連続の低下

C I先行指数は、前月差▲0.5ポイントと低下が予想される。これで3ヶ月連続の低下であり、弱含み傾向が続いている。C I先行指数は、景気に対して半年から一年程度先行する傾向があると言われている。国内景気が2010年10-12月期以降、踊り場局面入りすることが予想されていることは、C I先行指数が2010年4月をピークとして緩やかに低下傾向にあることと整合的と言えるだろう。今後は、C I先行指数がさらに低下を続けていくのか、それとも早期に底打ちするのかが、先行きの景気を見る上で注目される。



(出所) 内閣府「景気動向指数」。直近の値は第一生命経済研究所試算値

¹ 所定外労働時間については現時点で見公表であるため、筆者が仮置きして計算を行った。